

Olympic  
Movement

＜平成29年度 ハローオリピズム事業＞

# オリンピック教室

実施報告書

兵庫県 神戸市立塩屋中学校



公益財団法人日本オリンピック委員会



現行の学習指導要領は平成21年（2009）4月に公示され、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが明確化されました。そこには、中学校3年生の保健体育の「体育理論」の学習内容に、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会等は、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること」とオリンピックの意義が明示されております。

これを受けて日本オリンピック委員会（JOC）では、平成23年度（2011）から、体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施しております。

近代オリンピックの創始者ピエールド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表として実際にオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められております。このようなオリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることも期待しております。

「オリンピック教室」の授業は、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）及びオリンピック精神の教育的価値等を伝えます。また同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことの出来るものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身に学習してもらうこともねらいとしております。

平成23年に施行された「スポーツ基本法」の前文の一部に「スポーツは、世界共通の人類の文化であり、次代を担う青少年の体力を向上させるとともに、他者を尊重しこれと協同する精神、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培い実践的な思考力や判断力を育む等人格の形成に大きな影響を及ぼすものである」との記述があります。生徒のみなさんが「オリンピック教室」で学習する内容は、まさにこの基本法に記された精神や態度等を日常生活の中へ具現化することを後押しするものであると考えています。

平成29年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会



- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）  
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 平成29年4月～平成30年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 50校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目  
運動の時間 (50分)



2時限目  
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施  
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります



## 1時限目

### 運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介  
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動  
（作戦タイム等）を設け、  
生徒が考える機会を作る



運動の授業のまとめ

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

## 2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に  
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると  
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

### 座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用  
した自己紹介



オリンピック自身の経験に  
基づく「オリンピックの価値」等  
を伝える



グループ（個人）ワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます



## 実施内容

- 期 日 : 平成30年3月19日 (月)
- 場 所 : 神戸市立塩屋中学校
- ク ラ ス : 2年1組 (35名)、2年2組 (34名)
- オリンピアン : 兼松 由香 先生 (ラグビーフットボール)
- 授業のながれ : 運動の時間 (1時限、3時限)

### 1. 自己紹介～授業の目的確認



### 2. 準備体操



・兼松先生から自己紹介の後、今日の授業を通じてオリンピックバリューについて考えてほしいと、授業の目的を確認。運動の時間は、最後まで全力で失敗を恐れないこと(エクセレンス)、チームの仲間とボールを繋いで協力して得点をとること(フレンドシップ)、試合開始時と終了時に握手をすること(リスペクト)を意識しながら取り組んでほしいと伝え、準備体操に移る。

### 3. 主運動



- ・6班に分かれタグラグビーを実施。3班ずつ2つのリーグに分かれ、総当り戦を実施。
- ・試合の合間に作戦タイムを設け、班ごとにより多く得点するための工夫を話し合う。

### 4. まとめ



・授業冒頭に話した3つのことを実践できたか確認し、次の座学の時間ではより詳しくオリンピックバリューやラグビーフットボールについて説明すると伝え、授業終了。



# 実 施 内 容

## ■授業のながれ： 座学の時間（2時限、4時限）

### 1. 自己紹介と授業の目的を確認



・クイズ形式でラグビーフットボール競技やルール、兼松先生は20年以上の競技生活の中で、1枚もイエローカードを出されなかったこと等のエピソードを紹介し、兼松先生にとってのオリンピックバリューについて説明。

### 2. オリンピックの価値を伝える



### 3. グループワーク



発問：運動の時間を振り返って、実践できていたバリューについて考えてみよう。

発表：最後まで諦めず全力でプレーする、努力する心、何事にも全力で取り組んだ(エクセレンス)、声を掛け合ってパスをつなげる、皆で協力し得点したら皆で喜ぶ(フレンドシップ)、相手チームに感謝の気持ちを持ってプレーする、試合の始めと終わりに挨拶をする(リスペクト)等の意見が挙げられた。

### 4. まとめ



・グループワークで発表してもらったように、オリンピックバリューは皆の身近にもたくさんあるので、バリューを意識しながら、自分の夢に向かって努力し続けてほしいと伝え、授業終了。



## 実施内容

- 期 日 : 平成30年3月19日(月) 20日(火)
- 場 所 : 神戸市立塩屋中学校
- ク ラ ス : 2年3組(36名)、2年4組(34名)
- オリンピアン : 小塚 崇彦 先生 (スケート・フィギュアスケート)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3月19日: 5時限、3月20日: 1時限)

### 1. 自己紹介～授業の目的確認



・小塚先生から自己紹介の後、運動の時間の約束事として、前回の自分を超越するように全力で頑張ること(エクセレンス)、それぞれの運動が終わったら仲間とハイタッチすること(フレンドシップ)、ルールを守ること(リスペクト)の3つを守るよう伝え、準備体操に移る。

### 2. 準備体操



### 3. 主運動



- ・2班3チームに分かれ大縄跳びを実施。
- ・各チーム全員跳び、8の字跳びから跳び方を選び、全員跳びは跳んだ回数に人数をかけた数を、8の字跳びは跳んだ回数を得点とする。90秒間に跳べた合計回数を競い、2回戦以降は前のチャレンジとの得点差で勝敗をつけることとした。

### 4. まとめ



- ・授業冒頭の3つの約束を守れたか確認し、失敗しても前回の自分を超越するために挑戦し、全力で取り組んだ結果、記録を伸ばすことができたと伝える。
- ・次の座学の時間ではより詳しくオリンピックバリューについて話すと予告し、授業終了。



# 実施内容

■授業のながれ：座学の時間（3月19日：6時限、3月20日：2時限）

## 1. 自己紹介と授業の目的を確認



## 2. オリンピックの価値を伝える



・小塚先生が出場したバンクーバー大会の映像を見せながら、フィギュアスケートの技やルールについて紹介。5歳から27歳まで22年間の競技生活の経験を通して、小塚先生にとってのオリンピックバリューを説明。

## 3. グループワーク



発問：3年生で行われるイベントに今までの経験をどう活かせるか考えてみよう。

発表：昨日出来なかったことが出来るようベストを尽くす、負けていても全力で頑張る(エクセレンス)、良いところ悪いところも言い合う、相手を思いやる(フレンドシップ)、勝ち負けにこだわらず負けても最後には相手を称える、正々堂々と戦う(リスペクト)等の意見が挙げられた。

## 4. まとめ



・人との信頼関係は一緒に頑張ってきたからこそ結べるものであり、信頼関係があるからこそ得られるものもある。自分を知って、自分を律し、自分に打ち勝つことが大切であり、自分をいかくして高められるかを、バリューに当てはめながら考えてほしいと伝え、授業終了。





## 実施内容

- 期 日 : 平成30年3月20日 (火)
- 場 所 : 神戸市立塩屋中学校
- ク ラ ス : 2年5組 (34名)、2年6組 (35名)
- オリンピアン : 齋藤 里香 先生 (ウエイトリフティング)
- 授業のながれ : 運動の時間 (3時限、5時限)

### 1. 自己紹介～授業の目的確認



・齋藤先生から自己紹介をした後、ウエイトリフティングのデモンストレーションを披露。その後、オリンピックバリューについて、エクセレンスは「努力をすること」、フレンドシップは「仲間を大切にすること」、リスペクトは「相手を大事に思うこと」と簡単に説明し、運動の時間でもバリューを感じてほしいと伝え、準備体操に移る。

### 3. 主運動



### 2. 準備体操



・2班ずつ3チームに分かれ8の字跳びを実施。90秒間に跳べた合計回数を競う。各回終了後に作戦タイムを設け、全3回戦実施。  
・齋藤先生より記録を伸ばせたチームも伸ばせなかったチームも全力で取り組んでくれたことが素晴らしいと生徒を称えた。

### 4. まとめ



・運動の時間にオリンピックバリューを感じられたか問いかけ、回数を増やすために全力で取り組んだことはエクセレンス、仲間を励ましたことはフレンドシップ、跳びやすいように縄を回したことはリスペクトに当てはまると説明。  
・座学の時間では齋藤先生がオリンピックで経験したことを基に、より詳しくオリンピックバリューを説明すると伝え、授業終了。



# 実施内容

## ■授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

### 1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・映像を見せながら、ウエイトリフティング競技について紹介。1回の試技でバーベルに触れているわずか十数秒のために練習を積み重ねてきたと話す。
- ・オリンピックのイメージを問いかけた後、齋藤先生の経験を通して感じたオリンピックバリューについて説明。

### 2. オリンピックの価値を伝える



### 3. グループワーク



- 発問：自分の日常生活の中でバリューをどう活かせるか考えてみよう。
- 発表：苦手なことにも挑戦する、ひとつのことを最後までやり通す(エクセレンス)、仲間が前向きになれない時に励まし合う、互いの意見を大事にする(フレンドシップ)、ルールを守ってプレーする(リスペクト)等の意見が挙げられた。

### 4. まとめ



- ・齋藤先生にも思い通りにできなかったことやうまくいかないこともあったが、夢の舞台に向けて諦めずに最後までやり切ったこと、たくさんのかげえのない仲間ができたことを、今は誇らしいと感じている。今日考えてもらったバリューは皆の日常生活にもあり、今後の生活の中でもバリューを活かしてほしいと伝える。
- ・東京2020大会では神戸に宿舎に来る国もあり、オリンピックに関わる機会もあるので、このチャンスを活かしてほしいと伝え、授業終了。



# 記録写真

## ■ 集合写真

### 2年1組



### 2年2組





# 記録写真

## ■ 集合写真

### 2年3組



### 2年4組





# 記録写真

## ■ 集合写真

### 2年5組



### 2年6組





# 記録写真

## ■ 記念品贈呈

### 2年1組



### 2年2組



### 2年3組



### 2年4組



### 2年5組



### 2年6組



## ■ 証明書贈呈

